日本の“宝島”あまくさ

ほんど

まちづくり協議会だより

未来の大人から大人へ ～若者を応援するまち～

本渡まちづくり協議会
会長 **中川竹治**

新型コロナウイルスが発生してから、１年２か月、国内ではやっと感染者数が減少し、ワクチン接種も始まりましたが、完全に収束したとはいえず、気を緩めるといつまた感染が拡大するかもしれません。感染予防対策をしっかりとって日常生活を送っていきましょう。

昨年末に、中村市長さんが急逝されました。本市発展のため全力を尽くしておられたお姿を思い、大変残念であり、感謝の気持ちでいっぱいです。ご冥福をお祈りいたします。

馬場市長が誕生いたしました。課題山積の天草のまちづくりに手腕を発揮していただきたいと思います。私たちも一緒になって地域の未来へ向けて努力してまいります。

さて、昨年度は本渡まちづくり協議会でもコロナの影響で多くの活動が縮小、中止を余儀なくされました。今年度は活発な活動ができるようになればと願っています。「未来の大人応援プロジェクト」は、天草市や三重県の一般社団法人未来の大人応援プロジェクトの支援を受けて、天草拓心高校に令和元年４月にSBP部が発足し、活動を開始しました。高校生が主体的に考え、それを実践していくものです。私たち大人は、アドバイスはしますが、決定するのは高校生です。まずは、愛知県立高浜高校にオリジナルたい焼き機の製作をお願いし、天草ならではの、Ｓの絆焼き（あまりん焼き）を作り、天草を全国に発信していくことです。もう一つは、三重県立南伊勢高校南勢校舎の生徒が提案した災害時の非常食の開発です。昨年１月15日に天草市役所で南伊勢高校の生徒も一緒に「防災非常食の開発」に関するキックオフ宣言を共同で行い、開発を進めてきました。コロナの影響で順調とはいきませんでしたが、何度もTV会議を行い、試作を重ねてこの度完成し、２月13日に発表会を行いました。南伊勢の高校生もリモートで参加してくれました。しかし、これで終わりではありません。次なる活動の挑戦への始まりです。

私たちは多くの皆様のご理解を得て、この事業を応援してきましたが、あまりん焼きや、非常食を作ることが目的ではなく、あくまで手段の一つです。私たちが目指すのは、その名の通り未来の大人の応援です。次の時代を担う天草を愛する若者を育てていくことです。

この２年間天草拓心高校の生徒さんと近くで接してきました。岸川先生の指導の下、日々成長していく生徒を目のあたりにして、このプロジェクトに取り組んで来て本当に良かったと思っています。これからも応援し続けたいと思っています。

「我以外わが師」という言葉があります。人生は出会いが大事です。そして、どんな素晴らしい教えを受けても、自分が実践しなければ、それは学んでいないことと一緒である。自ら進んで学ぶことこそ人生の宝であるといわれています。生徒たちはまさにこのことを実践してきました。この言葉をしっかり受け止め、これからも活動してまいります。

皆様のご指導、応援よろしくお願いいたします。

Vol.26
令和3(2021)年4月1日号

目次

- 会長あいさつ……P1
- 令和２年度事業実績報告……P2～3
- 各地区の話題……P4～5
- 宮地岳地区、楠浦地区の取り組み……P6
- 天草拓心高校SBP部部長あいさつ……P7
- ふるさと応援寄附金のお礼など……P7
- 天草拓心高校SBP部の紹介など……P8

ほんどのいま

令和3年3月1日現在
（令和2.9.1との比較）

【本渡南】	男	3,786人	(－ 16)
	女	4,392人	(－ 11)
	計	8,178人	(－ 27)
	世帯数	3,770	(－ 20)
	高齢化率	33.4%	
【本渡北】	男	5,493人	(＋ 24)
	女	6,025人	(＋ 14)
	計	11,518人	(＋ 38)
	世帯数	5,104	(＋ 20)
	高齢化率	24.1%	
【亀場】	男	2,093人	(＋ 26)
	女	2,325人	(＋ 18)
	計	4,418人	(＋ 44)
	世帯数	1,837	(＋ 15)
	高齢化率	25.2%	
【枦宇土】	男	290人	(－ 2)
	女	307人	(－ 3)
	計	597人	(－ 5)
	世帯数	267	(0)
	高齢化率	48.6%	
【志柿】	男	1,249人	(－ 13)
	女	1,472人	(－ 13)
	計	2,721人	(－ 26)
	世帯数	1,217	(0)
	高齢化率	36.6%	
【下浦】	男	792人	(＋ 7)
	女	906人	(－ 1)
	計	1,698人	(＋ 6)
	世帯数	762	(－ 3)
	高齢化率	44.9%	
【楠浦】	男	1,130人	(－ 9)
	女	1,239人	(－ 2)
	計	2,369人	(－ 11)
	世帯数	1,013	(0)
	高齢化率	38.8%	
【本町】	男	810人	(－ 14)
	女	854人	(－ 20)
	計	1,664人	(－ 34)
	世帯数	826	(－ 7)
	高齢化率	41.0%	
【佐伊津】	男	1,520人	(－ 14)
	女	1,657人	(－ 16)
	計	3,177人	(－ 30)
	世帯数	1,436	(－ 4)
	高齢化率	36.6%	
【宮地岳】	男	237人	(－ 2)
	女	246人	(＋ 1)
	計	483人	(－ 1)
	世帯数	239	(＋ 1)
	高齢化率	54.5%	
【合計】	男	17,400人	(－ 13)
	女	19,423人	(－ 33)
	計	36,823人	(－ 46)
	世帯数	16,471	(＋ 2)
	高齢化率	31.7%	

【編集・発行】
本渡まちづくり協議会

【事　務　局】
天草市 地域振興部
まちづくり支援課
〒863-8631
熊本県天草市東浜町８番１号
TEL 0969-32-6661
FAX 0969-24-2744
E-mail machidukuri@city.amakusa.lg.jp

天草拓心高校SBP部の活動紹介

２月13日（土）に天草市複合施設ここらすで「防災非常食」についてプレス発表を行いました。

三重県立南伊勢高等学校南勢校舎と共同で進めてきた非常食プロジェクトについて「２校共同による SBP 事業成果発表会」と題し、今まで取り組んできたこと、製品の説明、製品に込めた思いなどを少しでも多くの方々に自分たちの活動を知ってもらえるように精一杯伝えました。

発案から試作、試作して改良、そして試作また改良とたくさんの時間をかけて製造した防災非常食「せんだご汁」ですが、非常時がなく安心な生活が送ることができ、食べる機会がない方が良いと考えています。この製品を通して防災意識が高まってほしいです。

▲記者発表のようす１

▲記者発表のようす２

パッケージには表面に、①商品の説明 ②共同事業であること、③方言メッセージ ④キャッチコピーを載せることを条件に原案の作成をしました。作成後は南伊勢高校や未来の大人応援プロジェクト、天草市など多くの方にご意見をいただき、改善を図り完成に至っています。

◀あまりん（オリジナルキャラクター）

▲試食のようす

▲開発した防災非常食

▲商品パッケージ

私たちの活動については、天草拓心高校ホームページ内ＳＢＰのコーナーで随時発信していきますので、ご覧ください。また、このプロジェクトには、多額の資金が必要です。ご協賛いただけると幸いです。

令和2年度 事業実績報告

未来の大人応援プロジェクト（SBP）

平成30年3月13日に開催した講演をきっかけに、令和元年度から本渡まちづくり協議会と天草拓心高校が連携・協働して実施している事業です。

今年度は、オリジナルたい焼き（Sの絆焼き：あまりん焼き）と防災非常食の開発に関するプロジェクトを推進しました。あまりん焼きについては、コロナの影響で販売はできませんでしたが、天草の塩を使ったもの、夏向けにアイスを挟んだもの、いちじくを使ったものなど色々と試作を行いました。このあまりん焼きの試作にあたっては、㈲永田冷菓の永田さんや元まるきんの金子さん、熊本菓房さんから助言や指導、物品の提供などご協力いただきました。

次に、防災非常食の開発については、すでに備蓄している非常食に着目し、乾パンやパンなど喉が渇きやすいものが多かったことから、子どもから高齢者まで食べやすい汁物ではどうか。特に災害時は、食べなれたものが落ち着けるのではないか。せっかくなら、天草の郷土料理であるせんだご汁がいいのではないかと意見がまとまりました。このせんだご汁の調理については、三重県立相可高校食物調理科村林教諭から指導してもらい、薄味で食べやすく、乾パンともあうものに仕上がりました。パッケージについては、三重県立南伊勢高校と何度もテレビ会議を行いながら、掲載内容やキャッチフレーズなど検討を重ねました。2月13日には、これまでの経緯や商品に込めた思いなどを発表し、せんだご汁の試食も行いました。来年度も取り組みを進め、8月の全国高校生SBP交流フェアでも取り組み内容を発表する予定です。

※活動の詳細は、最終面にも掲載

▲9月19日防災非常食に関する意見交換

▲10月25日講演会

▲12月12日あまりん焼きの試作

協議会だより発行事業

【1回目】令和2年10月1日号（Vol.25）発行
【2回目】令和3年4月1日号（Vol.26）発行
【配　布】本渡地域の全世帯

「協議会だより発行」事業は、本協議会の活動や各地区のまちづくりに関する様ざまな情報を広く発信することを目的として、年2回本渡地域の全世帯へ広報誌の配布を行う事業です。

多くの地域住民の皆さんのまちづくり活動に対する理解や、まちづくり活動への積極的な参画に向けて啓発を行っています。

※SBP…Social Business Projectの略で、地域課題をビジネスの手法を用いて解決していこうという取り組みです。

具体的には、若者（高校生）が中心となり、地元にある地域資源（人、モノ、自然、歴史、産業など）と交流し、見直し、活用して"まちづくり"や"ビジネス"を提案していく。そして、その取り組みを地域で応援し支えていこうというものです。

▲2月13日記者発表関係者

▲2月13日記者発表のようす

■令和２年度　事業実績一覧

実施期日・期間	「事 業 名」（実施場所） 事業内容	参加者
令和２年６月26日	「第１回 まちづくり協議会」会議（ポルト）	24人
	令和元年度 事業実績・収支決算の報告・承認 令和２年度 事業計画・収支予算の審議・決定	
令和２年７月20日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（ポルト）	14人
	本渡まちづくり協議会委員を対象とした岸川政之氏の講話、意見交換	
令和２年７月20日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草拓心高校）	約100人
	岸川政之氏の講演会、ワークショップ、打ち合わせ	
令和２年８月１日、２日、９日、23日	「第５回全国高校生 SBP 交流フェア」（天草市役所）	約40人
	オンラインにて、参加校や天草拓心高校 SBP 部の発表を視聴、結果発表・講評、参加校との交流会	
令和２年９月19日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草拓心高校）	約40人
	天草拓心高校 SBP 部への授業、防災非常食にかかる意見交換、オリジナルたい焼き（あまりん焼き）の試作	
令和２年９月20日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（ここらす）	約30人
	本渡まちづくり協議会委員、平成30年度人材育成事業受講者を対象とした岸川政之氏の講話、意見交換	
令和２年10月１日	「Vol.25 まちづくり協議会だより発行」事業（本渡地域配布）	－
	令和２年度 事業計画・収支予算、第５回全国高校生 SBP 交流フェア内容紹介、宮地岳地区、佐伊津地区の取り組み、地域おこし協力隊の活動報告、天草拓心高校 SBP 部の活動紹介などを掲載	
令和２年10月24日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草拓心高校）	約30人
	天草拓心高校 SBP 部への授業、防災非常食にかかる意見交換、オリジナルたい焼き（あまりん焼き）の試作	
令和２年10月25日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草工業高校）	約40人
	天草工業高校２年生を対象とした岸川政之氏の講演会	
令和２年12月11日、12日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草拓心高校）	約30人
	天草拓心高校 SBP 部への授業、防災非常食の試作、せんだご汁の調理指導、防災非常食にかかる意見交換、オリジナルたい焼き（あまりん焼き）の試作	
令和２年12月13日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草高校）	7人
	天草高校にて、SBP や天草での取り組み状況を説明、意見交換	
令和３年１月16日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（天草拓心高校）	約30人
	天草拓心高校 SBP 部への授業、せんだご汁の試食、防災非常食にかかる意見交換	
令和３年２月13日	「未来の大人応援プロジェクト（SBP）」（ここらす）	約50人
	天草拓心高校・三重県立南伊勢高校の協働による SBP 事業成果発表会	
令和３年４月１日	「Vol.26 まちづくり協議会だより発行」事業（本渡地域配布）	－
	令和２年度 事業報告、ふるさと応援寄附金のお礼、各地区の話題、天草拓心高校 SBP 部の活動紹介などを掲載	

各地区の話題

農産物加工講座を受講しました

宮地岳地区振興会 会長 松川　莞爾

婦人部では農産物加工の技術を学ぶことを目的に阿蘇郡小国町に研修に出かけました。「季節の野菜を使った加工品づくり」体験では、きゅうりのジャムやほうれん草を使った蒸し饅頭など、その土地の特産品で作る加工の技術を学ぶことができました。

道の駅『宮地岳かかしの里』の店頭に、婦人部で作られた加工品が並ぶ日もそう遠くはないと思います。皆様、お楽しみにお待ちください。

▶楽しく参加されているようす

▶講座の参加者

佐伊津町ウォークラリーを開催しました！

佐伊津地区振興会 会長 原田　康秀

10月25日に「第10回佐伊津町ウォークラリー」を開催しました。

コロナ禍で恒例行事の中止が続くなか、待ちに待った行事の開催ということもあり、ここ数年では最多の107名が参加し秋晴れの下、観察ゾーンやチェックポイントのクイズに挑戦しながら、地蔵様などを巡る約5kmの明瀬路を楽しく歩きました。ゴール後は、ぜんざいが振舞われ、景品抽選会でも盛り上がりました。今後も楽しい行事を通して地域の絆を深めていきたいと思います。

防災・炊出し訓練を行いました

本渡南地区振興会 会長 海江田 雅靖

毎年のように各地で「数十年に一度」の豪雨や台風による災害が起きています。そこで本渡南地区振興会では毎年この防災訓練を行っております。今回は「近年の多様な災害に対する心構えについて」と題し消防署より講話とＡＥＤ操作・心肺蘇生方法を学びました。市社会福祉協議会からはブルーシートによる寝袋つくり、段ボールでつい立つくりを学びました。参加された皆さんは真剣に各訓練に臨まれました。

◀消防署員による講話

◀苗を植えているようす

花づくり教室を開催！

本渡北地区振興会 会長 金澤　一紀

11月12日、天草花咲プロジェクト事業の一環として、「美しい天草の景観をつくる」という意識の高揚を図ることを目的とする花づくり教室が開催されました。講師の方から花の植え方や管理方法など分かりやすく説明を受けた後、コミュニティセンターの花壇にビオラやアリッサムの苗を植えたり、お持ち帰りのプランターに寄せ植えをしたりしました。今後も地域の皆さんで“北地区を花いっぱいに”を目標にこの事業に取り組んでいけたらと思います。

本町まちづくり講演会開催

本町地区振興会 会長　堀田　福男

▶講師の森下和代さん

11月14日、「まちづくり講演会」をコロナ禍の中、人数を制限して開催しました。

今年度は天草市立有明小学校校長 森下和代 様を講師にお招きして「いのちの講話」をして頂きました。

講演会で学んだ「自分と人のいのちのたいせつさ」をもう一度心に刻み、寄り添い合い、支え合いながら生活していく本町を目指します。

第11回 楠浦よかとこスタンプラリー大会開催

楠浦地区振興会 会長 鬼塚　清武

1月17日、楠浦町の歴史や文化を学びながら、名所や文化財など楠浦のよかとこを歩くスタンプラリー大会を開催しました。今年度は、参加人数を例年の半分にし、マスク着用や検温、手指消毒など、様々な場面においてコロナウイルス感染症防止対策を行いました。

当日は、楠浦よかとこ案内人の会と一緒に、楠浦小学校４年生が各名所を案内しました。小学生は１学期から勉強し、各名所や文化財の由来について上手に説明してくれました。その他にも自分たちで考えたクイズを出題するなど、参加者の皆さんも楽しみながら耳を傾け勉強されていました。ゴール後には、参加者から「小学生の説明がとても良かった。」「楽しかった。また参加したい。」などと声をかけてくださり、子どもたちも達成感に満ち溢れた表情でとても輝いていました。

▶小学生による名所説明

▶下浦さる～くのようす

地元を学ぼう！下浦さる～く

下浦地区振興会 会長 川﨑　　宏

下浦地区振興会では、フットパス【下浦さる～く】を毎年行っています。これは地元の方、特に小学生の保護者に下浦町の事を知ってもらおうと始めた企画で、現在は参加者を広く募り、町内・市内・県内からも参加者があります。今年度はコロナウイルス感染拡大防止に伴い、参加者を町内に限定し2月13日（土）に開催しました。当日は晴天に恵まれ、地元ガイドと共に「下浦街道を歩くコース」を歩きました。本来、昼食におにぎりと豚汁を提供しますが、感染防止を考慮し、パンとお茶の配布となりました。下浦さる～くは、現在４コースが設定されており、マップも制作されています。来年度からは、各コースの整備等を行い、より良い散策コースとして活用・運用できたらと考えています。地元を再発見、または下浦を知ってもらう良い機会になればと思います。

疫病退散！～イルミネーション事業～

亀場地区振興会 会長　河野　　舜

11月22日から1月3日までの約1ヶ月間、亀川小学校国道沿いのフェンスと校庭（並木、遊具、倉庫）にイルミネーションを設置しました。今回も稜南中学校美術部（生徒19名、先生方4名）の皆様にご協力をいただき、地域づくり部会のメンバーと一緒に作業を行いました。今年度は、コロナ禍にあり「禍転じて福と為す」よう、新たに疫病退散のシンボル「アマビエ」を掲げ、コロナ退散の願かけとしました。

◀一緒に作業した稜南中のみなさん

◀脳トレ教室のようす

楽しく認知症を予防しよう！脳トレ教室開催

志柿地区振興会 会長 有江　浩三

11月11日、認知症予防の研究活動を行っている株式会社 Re 学の川畑先生をお招きし、「脳トレ教室」を開催しました。

参加された方は終始笑顔で、川畑先生のユーモアを交えたお話を聞いて認知症に対する理解を深めるとともに、体を動かしながらの頭の体操を楽しまれていました。

後日、川畑先生が監修された「頭リハビリパズル」を購入し、現在では志柿・瀬戸地区コミュニティセンターで行われている100歳体操教室や地域のサロンなどで活用していただいています。

これからも地域の皆さんの元気と笑顔に繋がるような事業を展開していきたいと思います。

枦宇土ふるさと写真展

枦宇土地区振興会 会長 平山　辰巳

懐かしいふるさと枦宇土の写真展には、明治45年に撮られた写真から始まり平成までの風景や人々の様子を展示しました。

近年では、閉校して取り壊された枦宇土小学校、今では見ることの出来ない亀川ダムの湖底に沈んだ棚田や道路の様子、水天宮の胴突き、昭和30年代になると懐かしい小学生時代の同級生の姿もあり、大正8年枦宇土村の春田の田植えは、こんな格好で田植えをされていたのかと関心に至り、数々の写真が集まり見に来られた人々も楽しんでおられました。

◀写真展のようす

善意の寄附ありがとうございました（敬称略）

〔令和２年９月～令和３年２月　本渡まちづくり協議会受領分〕

○ふるさと応援寄附金として

油屋　吉宏（神奈川県）	阿部　兼治（神奈川県）	粟木原晶子（兵庫県）	石黒　忠男（埼玉県）
井芹　浩章（熊本県）	井上　隆之（兵庫県）	今井　隆雄（香川県）	今里　康弘（愛知県）
植木　恵介（東京都）	内海　高大（神奈川県）	江原　　哲（京都府）	緒方　正剛（神奈川県）
沖田　宏之（広島県）	熊谷　美希（千葉県）	黒田　信博（滋賀県）	河野　祥和（愛媛県）
河野　英知（神奈川県）	鮫島　京一（奈良県）	鈴木　健治（神奈川県）	須藤　幸芳（東京都）
田中　美加（大阪府）	津上　善信（福岡県）	辻　　昌宏（埼玉県）	中川　　眞（滋賀県）
中村　晃史（兵庫県）	中村　幸絵（福岡県）	沼田　大佑（千葉県）	長谷川麻衣（石川県）
原　　泰斗（東京都）	久間　孝志（熊本県）	福田　良治（神奈川県）	福永　幸司（山口県）
藤田　勝久（東京都）	古谷　和夫（東京都）	牧口　慶子（千葉県）	三瀬　浩史（兵庫県）
森　　昭二（奈良県）	藪内　勝仁（東京都）	山本　　仁（東京都）	

※その他、192 人の方にご寄附をいただきました

「ふるさと納税」で、天草本渡のまちづくりを応援してください。応援したいまちづくり協議会または地区振興会を指定できます。市外にお住まいのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ご周知くださいますようよろしくお願いいたします。

市まちづくり支援課が「天草市役所」に移転！

本渡まちづくり協議会の事務局を務めている市まちづくり支援課が天草市役所本庁舎１階へ移転しました。同課では、まちづくり全般の業務や交通安全・防犯、消費生活相談の業務などを行っています。困りごとなどありましたら、お気軽にご相談ください。

「成長と感謝」

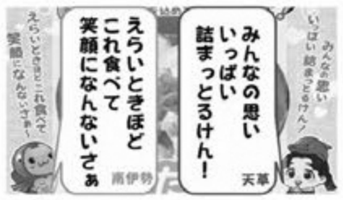
天草拓心高校ＳＢＰ部代表　大石　恋

私はＳＢＰ活動を通して、一からものをつくることの大変さを学び、その中で積極性や人に意見を伝える力を身につけることができました。

私たちはオリジナルたい焼きである「あまりん焼き」と防災非常食の開発を行ってきましたが、どちらについても知識や経験がなかったため、製作当初は何から始めればよいのかもわからない状態でした。技術的な面でもたくさん試行錯誤してきましたが、一から商品を作り上げるという点で、どんな商品を作るのか、どんな思いを込めて商品を作るのか、など意見やアイデアを出すことが特に難しかったです。しかし、活動を進めていく中で、「もっとこうしたほうがいいんじゃないか」「こういう思いを伝えたい」と部員一人一人がたくさん意見を出すようになり、その中で積極的に自分の意見を伝える力を身につけることができました。また、同じＳＢＰ活動に取り組んでいる他校の生徒や、たくさんの大人の方々にもアドバイスしていただき、天草の魅力がつまった「あまりん焼き」と「せんだご汁」を完成させることができました。ものをつくることは簡単なことではなく、時間もたくさんかかりましたが、その分完成した時の達成感は大きく、とても嬉しかったです。

また、このＳＢＰ活動では、一般社団法人未来の大人応援プロジェクト、天草市役所、本渡まちづくり協議会などたくさんの方にご協力していただきました。二つの商品を製作したことは私たちにとってとても良い経験になりましたし、その中で、私たち自身も大きく成長することができたと感じています。ここでの経験を将来に活かし、私たちもいつか、ご協力してくださった皆さんのように、未来の大人に手を差し伸べられるような大人になりたいと思います。今までのたくさんのご協力、本当にありがとうございました。

▲パッケージを説明する大石部長



▲みんなで考えたメッセージ

宮地岳地区

かかし常設展示、イルミネーションの取り組み

宮地岳地区では、毎年３月下旬から５月上旬にかけて、「宮地岳かかしまつり」を開催しており、農村風景を再現した、手作り「かかし」を展示しておりますが、宮地岳地区の新しい取り組みとして、令和３年３月 21 日にオープンした道の駅『宮地岳かかしの里』の２階スペースで、かかしの常設展示を行っております。

２階スペースは、旧宮地岳小学校跡地を改築したもので、旧教室を活用し３つのテーマを決めて展示しております。

１つ目は「昭和の結婚式」、２つ目は「学校の授業風景」、３つ目は「かかし作りの工程」です。もちろん、すべて「かかし」で再現してます。写真撮影も可ですので、道の駅にお立ち寄りの際は、ぜひ、かかしの常設展示もご覧になってください。

▲かかしの常設展示「学校の授業風景」 ▲かかしの常設展示「かかし作りの工程」

▲かかしの常設展示「昭和の結婚式」

また、町内の有志で結成した「宮地岳ライトアップ研究会」により、宮地岳の更なる飛躍と明るい町づくりを目指して、イルミネーションの設置を行いました。「かかし」と協調しながら、多くの方に宮地岳に訪れて欲しいと願いを込めて、取り組んでます。

▲イルミネーション設置

楠浦地区

楠浦町の黄色い旗運動

楠浦地区振興会では、第４期楠浦地区振興計画の新規事業として、「黄色い旗運動」に取り組んでいます。今年度は、モデル地区として上の原地区内で実施することとなり、「上の原区見守ろう会」の協力のもと、全世帯で黄色い旗運動が始まりました。

この黄色い旗運動は、毎日、住民の方が道路からでも確認しやすい自宅の軒先等に、朝から夕方まで黄色い旗を掲げ、『今日も元気です！』とお知らせします。黄色い旗が掲げられていなければ、隣近所や気づいた方が声掛けをして安否確認を行います。今後は、一人暮らしの高齢者などの見守り活動につなげていきたいと考えています。

また、地区のあちこちに黄色い旗が掲げてあることにより、『あの旗は何だろう？』や『あっ、あそこの家にも旗がある！』と周りの目が向けられるため、防犯対策にもつながっていくことを期待しています。

▲各戸に掲げる黄色い旗

家庭内や近隣住民と声掛けをする事で、お互いのコミュニケーションが深まり、住み慣れた地域でもっと安心して安全に暮らせるようになることを願い、地区振興会の事業として始めました。暮らしやすい楠浦町を目指して、これからもこの運動を続け、町内の各地区に広めていきたいと思います。

▲安否確認のようす